



### 藤原亜津子先生セミナーシリーズ始まる

1400回を上回る講座で全国各地の指導者の心をつかむ藤原先生が、いよいよ高松に！  
 第1回目は、パーティー総論とパーティーAについて、数々のグッズとレッスン風景の録画を交えてお話しくださいました。「机上の空論ではなく、現場をお伝えします」と。先生のお手玉パフォーマンスは「優雅」の一言！  
 お聞きした、☆歳とは思えないパワーと可愛らしさを兼ね備え、ご発言は常に的確で無駄がなく、説得力に満ちています。生徒さんたちへの愛情に溢れる先生のお人柄に、「お手本にしたい」と新たにファンになられた方も多いことでしょう。深まる秋、バスティンメソッド×藤原先生の魅力に、どっぴりと浸かれそうですね！

### 塚原利理先生のセミナーのご感想をいただきました

毎回、バス研の講座を楽しみに受講しています。参加すると、必ず新しい発見や再認識する機会を与えて貰える貴重な気付きの時間になっています。人生は、どれだけ多くの気付きを得られるかということで、より豊かな時間を得られるものですが、塚原利理先生の「科学的指導法」というタイトルから、一体どの様な気付きが得られるのか、全く想像出来ないままの受講でした。最近の科学は、我々の想像を絶する事まで分析されていますが、それを大変わかりやすい言葉と、図式で説明して頂き、あやふやだった指導の在り方が明確になり、大変スッキリしたのを、嬉しく思っています。細かい脳の役割を知る事で、より効率的なレッスンが出来ると考えます。そして、塚原先生により気付けて貰った多くの知識を、適材適所で活かせる様になればと考えています。

黒田淑子先生



### 各地のセミナーより

#### 根津栄子先生 “チェルニー30番30の小さな物語”

発売と同時に今年のバスティンフォーラムでも紹介され、満員の会場を沸かせた根津先生。従来のチェルニーのイメージを一掃するこの画期的なテキストには、根津先生の願いが込められ、しかも子どもの視線に合った内容に、どのページも心が躍ります。明石でのセミナー当日、配られたレジュメを開けると、内容が簡潔かつ分かりやすくまとめられ、こんなところからも、先生のお人柄が伝わってきました。テキストは上巻下巻に分けられ、小さな手(子ども)でも弾けるようにと曲順を並べ替えて、各曲のタイトルは、先生の生徒さんが考えられたそう(28番のカスタネットだけは先生)です。楽譜については、「タイトル左上の四角で困んだ内容が、それぞれの曲で習得すべき課題」「青い丸で困んだ音が注意すべき音」「青字の解説は情景のイメージ」「黒字の解説は奏法について」「赤い四角で困んだ数字は注意すべき指使い」という事でした。また、30番に入る前にやっておきたいこととして、指のストレッチや独立、脱力、楽譜に何が書かれているか考える力、イメージ、アナリゼなども挙げられ、同じく先生編の「こどものスケールとアルペジオ」のご紹介と、レッスンの録画も見せてくださいました。まだ、あどけないお顔の生徒さんが、様々な調のスケール、アルペジオ、カデンツを見事に弾きこなしている様子には、大いに感心しました。そして思わず笑顔になるような可愛いグッズや全調を覚えるために工夫されたカードなども次々とお披露目下さり「レッスンが本当に楽しいんですよ〜♪」と先生ご自身が目を輝かせていらっしゃいました。指導者の目論見は「確実な実力を目指すこと」であったとしても、子どもにとっては「夢があって面白くてワクワクする！」ことがとても大切な根本である、と理解できました。根津先生のベースもやはりバスティンの全調メソッド。指導者の信念と工夫次第でここまで発展出来る事を教わりました。無理なくチェルニー40番、ショパンのエチュードなどの高度な技術に繋がりますようにと願いが込められた「30の小さな物語」。先生のご熱意と暖かな眼差しが一層伺えるセミナーでした。

6月24日 佐々木千文 記



#### 池川礼子先生「100のレッスンポイント、名曲が弾けるまでのヒントとして」

9月26日音楽之友社から発売

ピアノ教育は芸術教育であり、人間形成に役立つという信念が強く伝わってくる。池川先生は、「先生方というより生徒さんやご父兄に読んでいただきたい！」とおっしゃっています。



#### 江崎光世先生 “効果的な逆算式ピアノ指導法”

江崎光世先生による演奏上達術、効果的な逆算式ピアノ指導法の講座が7月1日徳島で開催されました。高松や徳島では 近々コンクールの予選が行われるということで、普段のレッスン法に加え、コンクールに向けての指導法もお話し下さり、あっという間の2時間でした。ピアノの先生になられたきっかけから現在に至る先生の歴史のお話や、オルガンピアノ(導入期の教材)を使ったレッスン風景、バスティン・ベーシックスの取り入れ方など、貴重なお話が満載のひと時でした。導入期はやはり耳を鍛えることが大切とソルフェージュや連弾に力を入れていらっしゃるということ、グレードやコンクールに挑戦することで目標に向かって歩いてみて、そしてどう感じるかということ、CDや音楽会の鑑賞によって本物の音をたくさん聴き、聴いた音で自分の音が作られるということ、また母の会で保護者同士のコミュニケーションも大切なこと、などこれらを全部含めて体験的ピアノレッスン法として、日々レッスンを進めていらっしゃるそうです。私たち指導者に対しては、生徒が知って良かった、やってみて良かったと思えるような指導を心がけ、指導者自身も、自分に目標を決めて目標のノルマをかけることによって、だんだん長い時間の間に積もっていくのだとアドバイスをいただきました。『計画性と情熱を兼ね備えた指導者になりたい！！』と決意を新たにしました。

藤田美香絵 記

